令和元年度　北九州市立　池田小　学校・園　学校評価報告書（自己評価）

〈様式　1〉

| 学校教育目標 | 自ら学び、感性豊かで、たくましい子どもの育成 |
|---|---|

《本年度の重点目標》

《重点目標1》 自ら学び自ら考える子どもの育成　（い：意欲のある子ども）・・・「知」　【学力向上プランの実践】

《重点目標2》 楽しく頑張る子どもの育成　（け：健康な子ども）・・・「体」　【体力向上プランの実践・挨拶運動の実践】

《重点目標3》 美しい心を持ち、自分も友だちも大切にする子ども　（だ：団結力のある子ども）・・・「徳」【いじめ問題解決のための取組・特別支援教育推進のための取組】

◆記入にあたっての留意事項
- ○　別紙『2019（平成３１）年度「指導の重点」全体構想』に示している重点項目から各学校・園で重点においた取組について記載すること
- ○　取組については，各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること
- ○　小・中学校においては、スクールプランに位置付けている
  「学力向上に関する取組」、「体力向上に関する取組」、「その他学校独自で設定した取組」を必ず位置付けること
- ○　評価の例
  A…目標を十分に達成できた　B…目標をほぼ達成できた　C…あと少しで目標が達成できた　D…目標達成までいかなかった

| 取組 | 評価項目 | 評価項目についての重点的取組 | 評価 | ○成果と◆次年度に向けた改善点 |
|---|---|---|---|---|
| 学力向上に関する取組 | 【授業改善】<br>◇<児童質問紙>「授業では，先生から示される課題や，学級やグループの中で，自分たちで立てた課題に対して，自ら考え，自分から取り組んでいたと思いますか」について，肯定的な回答をした児童の割合[70%以上] | ○各担任が、算数科の主題研究の内容を常に意識し、一単位時間の授業計画や教材研究をしっかり行う。<br>①題意を把握させるために導入の工夫を図る。<br>②児童自身が考えをしっかりもつ。（個人思考）<br>③授業の中で、必ず交流場面を設けて、自分の言葉で考えや思いを、相手に説明させる。（練り合い）<br>④練習問題をする。⑤振返り(達成感)、といった一連の流れを児童に定着させる。[毎時間]<br>○管理職や教務主任が1日1回の校内巡視を行い、授業改善につながる助言等を行う。<br>○ | B | ○「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を全学級で取り組むことによって、1時間当たりの授業の流れをしっかりと定着することができてきた。<br>○年度末児童アンケートで「当てはまる・少し当てはまる」といった肯定的な回答をした児童が、目標の約70%以上を達成できた。<br>○支援の必要な児童に対しては、決め細やかな指導をすることができた。<br>◆支援を要する児童が多い時には、職員の業務の関係で十分に対応ができないことが何度もあった。 |
| | 【補充学習】<br>◇<児童質問紙>「先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，分かるまで教えてくれますか」について，肯定的な回答をした児童の割合[90%以上] | ○朝自習やドリルタイム（5校時授業の前の10分）の時間を毎日設定し、しっかりとした基礎・基本を身に付けるさせる。朝自習には、視写ノート（各担任や学力向上推進教員の高橋先生による指導）や音読暗唱ブック「ひまわり」の活用。また、低学年では、担任外の先生に、キラキラタイムで暗算や暗唱をチェックしてもらったり、MIMを取り入れたりして、読みのつまずきの解消を図る。ドリルタイムでは、四則計算等の基礎・基本の定着を図る。個に応じた問題量を設定したり、達成感をもたせるためにファイリングを行ったりする。 | B | ○全職員が、一丸となって取り組むよう共通理解がとれ、年度初めには全校で家庭学習についての形態や内容、分量についての会議を行うことができた。<br>◆年度末児童アンケートで「当てはまる・少し当てはまる」といった肯定的な回答をした児童が90%以上になるように、子ども達をしっかりと支援していきたい。 |
| | 【家庭学習】<br>◇<児童質問紙>「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか」について，「1時間以上している」と回答した児童の割合[50%以上] | ○「学年×10分間」の家庭学習を基本に、学年や低・中・高学年で宿題の量に差がないように共通理解を図る。<br>○保護者に、子どもの学習内容や学校での生活に、興味・関心をもたせる。そのために、学級通信や学年通信を必要に応じて配付したり、家庭学習チャレンジハンドブックを月末に保護者と担任が確認をする。<br>○5年生に対し、B4サイズ両面印刷の自作の宿題プリントを毎日させて、学習日記など「書くこと」に力を入れて取り組ませる。 | A | ○年度末児童アンケートで「当てはまる・少し当てはまる」といった肯定的な回答をした児童が、目標を達している。<br>○昨年度の反省を踏まえ、年度初めには全校で家庭学習についての形態や内容、分量についての会議を行うことができた。<br>◆家庭学習に積極的に取り組む子どもと取り組まない子どもの差があるので、担任が把握をするとともに、学校通信や学年通信を通して保護者にも呼びかけ、協力を求めたい。 |
| 体力向上に関する取組 | 【授業改善】<br>◇＜児童質問紙＞「体育の授業は楽しいですか」について，肯定的な回答をした割合[90%以上] | ○「体育授業のポイント」を共通理解し、「めあて」や「振り返り」の時間を必ず確保する。また、準備運動では、体力向上プログラムを活用し、ジャンプアップ運動等を必ず5分間行うようにする。<br>○スポーツテストや大きな危険を伴う授業には、管理職・教務主任・児童支援加配等が補助に必ず入る。<br>○パワーアッププログラムに基づく授業を行う。 | B | ○年度末児童アンケートで「当てはまる・少し当てはまる」といった肯定的な回答をした児童が、約91%で、目標をに達しているので、このまま継続させたい。<br>◆体育授業のポイントシートの積極的活用を、1週間に2回以上は行いたい。 |
| | 【体力テスト】<br>◇スポーツテストの自分の数値を、昨年度よりも上げることができるように目標をもたせる。<br>◇一校一取組として、「池田運動タイム」に積極的に参加をする。 | ○新体力テストを全学年・全種目、適切に実施するために手引き書や、正しい測定の仕方や実施の仕方のDVDを作成し、配付する。また、校内研修で正しい測定の仕方を確認したり、児童にも、給食時間等を利用してDVDを視聴させる。<br>○「体力アップシート」や「北九っ子体力向上シート」を児童に配布したり、自分の体力向上のために「めあて」や「振返り」をさせたりする。その際、保護者にも子どもの体力について確認をしてもらう。<br>○毎日、中休みを「池田運動タイム」と設定し、全校で外遊びを実施する。また、縦割り活動として長縄やドッチビーに取り組み、体力向上につなげる。 | A | ○寒い季節であったが、子ども達は中休みになると積極的に運動場に行って元気よく活動することができた。<br>○池田運動タイムの一環に、「長なわ集会」を縦割り活動で取り組むことにした。上級生の下級生に対する優しさをみることができた。<br>◆運動場に出ても、寒さのために積極的に活動していない子どもがいた。数回、声かけをする必要があった。 |
| 心の育ちに関する取組 | 【授業改善①（道徳）】<br>◇<児童質問紙>「自分には，よいところがあると思いますか」について，肯定的な回答をした児童の割合[80%以上]<br>[授業改善②（特別活動）]<br>◇<児童質問紙>「人が困っているときは、進んで助けていますか」について，肯定的な回答をした児童の割合[90%以上] | ○自尊感情を高めたり、自分のことを好きになったりするために、道徳の時間に内容項目「生命の尊さ」・「親切・思いやり」や「個性の伸長」に関する教材を計画的かつ重点的に実施していく。<br>○授業後の振り返りや帰りの会の中などで、友達の良さを認めたり、励ましたりする活動を必ず取り入れ、教師による価値付けを行う。<br>○「北九州子どもつながりプログラム」を系統的に行い、友達との人間関係や信頼関係を高める。<br>○友達に言われてうれしい言葉（フワフワ言葉）や嫌な言葉（チクチク言葉）を考えたものを、集中下足室に掲示することにより、児童自身に言葉の重みを考えさせる。（毎学期） | A | ○年度末児童アンケートで「当てはまる・少し当てはまる」といった肯定的な回答をした児童が、約80%で目標に達した。今後、この数値を維持する。<br>◆低学年での友達同士のトラブルが多かった。自分の気持ちを伝えたり、相手のことを考えたりすることが苦手なので、細かい指導が必要と感じた。<br>○年度末児童アンケートで「当てはまる・少し当てはまる」といった肯定的な回答をした児童が、約91%であり、目標に達した。更に数値を向上させていきたい。<br>◆今後も向上させる取組を継続させていきたい。 |
| いじめ問題解決に関すること | 「いじめのない学校」をめざし、いじめに関するアンケートとアンケート結果をもとに担任との面談の実施。 | ○いじめに関するアンケートを学期ごとに実施し、アンケート結果をもとに担任が休み時間やドリルタイムの時間を活用して、別室で一人一人の児童との面談を実施。教職員の連絡を密にとり、いじめの発生を防いだ。家庭との連携を行う。 | B | ○「いじめのない学校」をめざし、アンケートや面談を行った。児童が、いじめと考えている事案を個別の面談等で検証したが、全てけんかや児童が勘違いしていたことが判明した。全ての事案について、早期発見と早期対応ができた。また、いじめの兆候が出たときには、教職員が一体となって適切に取り組んだり、保護者にも連絡したりして、小さな芽のうちに解決していくといった、校内の雰囲気の醸成が整った。ネットトラブルなど新たないじめの形態について保護者へも知らせ、いじめを許さない意識を高めた。 |
| 特別支援教育推進に関すること | 特別支援教育や人権教育の視点に立った子どもの見取りと、個に応じた生活及び学習指導の推進。 | ○特別な支援を要する子どもへの組織的な対応・支援を実施するとともに、個に応じた指導により基礎・基本の定着を図る。<br>○特別な支援を要する児童について、生徒指導・特別支援教育連絡会やケース会議を定期的に開き、組織的に対応する。少人数指導を全学級で計画的に実施して学習面で課題のある子どもに寄り添い、学級の中で協力し合う関係をつくり出す。 | B | ○今年度は、就学相談2件、教育相談5件の申請に向けて、その都度保護者を交えてのケース会議を開いた。その際、管理職や特別支援教育コーディネーターはもちろん、スクールカウンセラーの協力を得て、丁寧に話を進めることができた。 |
| あいさつ日本一に関すること | 「あいさつ」を中心に、よりよい学校生活を送るための意識付けと指導の実施。 | ○運営・計画委員会が、年に4回「スマイルあいさつプロジェクト」（挨拶週間）を開催し挨拶の習慣化を図る。 | A | ○教師の支援のもと、運営・計画委員の児童が、「スマイルあいさつプロジェクト」（挨拶週間）を年に4回開催した。全校児童に「挨拶の振り返りカード」を配布し、自分の挨拶を振り返らせることで、気持ちのよいあいさつができるようになった。 |